

妖精の翼を持つTS転  
生ウィッチが自由気儘  
に大暴れ

n a m a k o : B E R S E R K E R

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

平和な世界で平凡な男が亡くなって、女体化、ストライクウィッチーズの世界へ転生する事を強制された元男のオリ主がネウロイや悪役の造った敵相手に大暴れする物語。

# 目次

第一話	転生者、妖精の翼を持って攻撃 魔女の世界へ。	1
第二話	気が付いたら甲板で	5



# 第一話 転生者、妖精の翼を持って攻撃魔女の世界へ。

地球の日本国、神奈川県茅ヶ崎市赤羽根に平凡な言われた事はやる、言われてない事には狼狽える未熟な土作業員が居た。

ユンボで地面を掘削中に、足下の土が崩れて、落下した拍子に頭を打ち付けて崩れた土に胸まで埋まってぐったり意識も無く頭から出血していた。

人を呼んで、救出を試みる。

意識が無い者を引き上げるのは人の力では困難で、幸いフルハーネスのフックが埋まっていなかった為、オペレーターがユンボの先を伸ばし、フックを要救出者の近くで止めた。

呼んだ人に要救出者のフックをユンボのフックに掛けて引き上げた。

引き上げて分かった事が埋まった時に要救出者がフルハーネスに装備していたカッターナイフが飛び出し太腿に刺さって土で圧迫され深く刺さっていた。

すぐに救急搬送されたが、素人目にも生存が絶望的と思う重体だと見て取れた。

工事現場は止まってしまった。

そこで働いていた作業員の鬱憤は死亡した土作業員に向かった。

◇◆◇

「んっ」

「目が覚めましたか」

「ええ。まだぼうつとしますが。それで此処は？」

「はい、此処は神界です。」

貴方は地面を掘削中に足場が崩れて落下、頭を打ち、カッターナイフが腿に刺さつて動脈から出血、頭からの出血に、脳出血による出血死で救急搬送されるも間に合わず亡くなりました。

お悔やみ申し上げます。

さて本題です。

これから貴男は貴女へなつて直訳、攻撃魔女のストライクウィッチーズの世界へ行つて貰います。

神様転生と言う我々の都合上転生特典が賦与されます。

先の条件、女性に生まれる事、ストライクウィッチーズの世界へ行く事以外で好きな能力を賦与します。

質問は都度受け付けます。」

「はい！先生」

「はい、貴男」

「二つ目、人型アラガミの身体と艦体を構成する量のオラクル細胞。

二つ目、ストライカーユニットにFFR41-MR/MAVE。」

三つ目、ALOのシノンの容姿とコスチュームとアルティマラティオ・ヘカートIIと能力。

四つ目、霧の艦隊全艦のデータ。

五つ目、神機。

六つ目、機体名のメイヴ、AI名の雪風を自分の第二第三の人格としたい。

七つ目、人格間で相談出来る様にして欲しい。

八つ目、女性としておかしくない話し方や知識。

以上を何処まで叶えられますか？」

「全て叶えましょう。」

但し、人類敵要素は除く。

貴女は人類の希望と成るのです。」

「分かった。」

「以上でよろしいですね？」

「はい、お願いします。」

「では、転生を始めます」

そして俺は、女性として生まれ変わる事に成った。

この小説は転生オリ主の氏名、朝田詩乃、コードネームシノンがストライクウィッチーズの世界で大暴れする物語。

## 第二話 気が付いたら甲板で

転生が完了すると其処は、超正規航空母艦・AKAGI（以下AKAGI）の甲板に居た。

そのAKAGIはオリ主が望んだ「霧の超正規航空母艦赤城」でメンタルモデル（蒼き鋼のアルペジオ）と艦娘（艦これ）とKANISEN（アズールレーン）の三人（三体？）が居て深海棲艦航空母艦ヲ級（艦これ）と戦艦レ級（艦これ）の二人（二体？）がちやっかり居た。

「え？メンタルモデル、艦娘、KANISENの三人は良いとして敵役のヲ級とレ級が居るの？私の好みではあるけど敵を近付ける程危機感が無いわけでは無いわよ。」

「簡単に説明すると女神が艦長（提督）（マスター）（ご主人）の好みを読み、プレゼントとして贈られましたのでご安心を。」

「そっかぁ。」

私はヲ級に近付いて…。

ギューツと抱きついた。

「ヲ。ご主人、暖かい。」

「ヲ級のおっぱいも柔らかいわ。」

レ級に近付いて…。

「レ。ご主人柔らかい。きゃん！尻尾は駄目なの！」

「触っちゃ駄目なの？」

「……………何時でもは駄目。私が暇な時に気が向いたらね／＼／＼」

「分かったわ。」

次は艦娘に抱き付いて、

「赤城〜」

「え？何ですか？」

「甘えなかったから抱き付いた。」

「ええ。何時でもどうぞ。」

次はKANISENの尻尾に飛び付く…。

「モフモフ〜♡」

「やばい！マスターがめっちゃ可愛い」

次はメンタルモデルに右手を出し…。

「よろしく。赤城（以下アカギ）」

「よろしく。艦長名前はどうか呼べば良い？」

「シノンかシノのんって呼んでくれると嬉しい。後、私の戸籍と今の所属を調べて欲しい。お願い」

「分かった」

チツ

「名前は朝田詩乃。女性。1928年8月21日。満13歳。住所は神奈川県茅ヶ崎市赤羽根。所属は扶桑海軍遣欧艦隊第24航空戦隊第288航空隊大尉。今は501統合戦闘航空団、ストライクウィッチーズへ異動で欧州に向かつてるよ。ほら隣に赤城。後半日程で到着する。」

アカギが指した先には宮藤芳佳が甲板を掃除している様子が見える赤城が航海している。

「なら坂本少佐の訓練飛行とネウロイの襲撃がすぐだな、ストライカーユニットの準備を進める。」

「了解」

するとAKAGIの格納エレベーターが私のストライカー、FFR41—MR/MA VE雪風を載せて上がってきた。

メイヴ雪風のエンジンを起動して暖気運転を行い、何時でも出撃出来る様に準備を整える。

すると通信が坂本少佐から入る。

『朝田大尉。ストライカーのエンジンを暖めている様だが、これから私は飛行訓練するが、混ざるか?』

『腕が鈍ってしまいますし、参加したいです。』

『分かった。坂本美緒!朝田大尉と共に飛行訓練を開始する。』